



山口県本部版
 NO 277
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 山口県本部
 〒754-0004
 山口市小郡金堀町
 21番の1
 林洋武方
 電話&FAX
 083 (972) 3987

政権交代をめざす総選挙の前哨戦

参議院山口選挙区補選告示

日本共産党、河合喜代氏が第一声！

【写真：10月7日 山口県庁藩庁門前での出発式】

◆ 十月七日告示、二十四日投票で、参議院山口選挙区補選がたたかわれます。野党は共産党の前県議、河合喜代氏が政権交代の期待を担って奮闘中です。◆ 総選挙は十月十九日公示、三十一日投票と決まりました。

◆ コロナ緊急事態宣言が十月一日から全国的に解除され、諸活動への制約が緩和されました。今月は参院補欠選挙、衆議院選挙で政権交代をめざして全力をあげましょう。手洗い、マスクなど、感染予防は引き続き行いましょう。

◆ 同盟県本部に「山口県センチュリー裁判」支援の署名集めの要請が来ています。署名の一次締め切りは十一月十五日、二次締め切りは十二月十五日です。取組みをお願いします。

◆ 同盟中国ブロック交流会は二年連続中止となりましたが、十二月五日(日)に、各県二〜三名の代表による日帰りの会議が広島市で開かれる予定です。

◆ 国賠同盟の署名は九月三十日現在、個人署名百二十筆、団体署名十筆です。八月から前進していません。

最後の4・16被告

田熊眞澄さんへ聞く

(その6)

田熊 目黒署で二九日たった後、今度は笹原署に回されました。笹原署に移される頃、脚気になっていました。足がきかないのです。足がたたずフラフラはじめました。十日たったぐらいの時、歩けないで倒れました。警察の弁当は、一応白米の箱入り弁当で、その後の刑務所と比べれば悪いものではなかったと思います。が、蚤、虱、南京虫には往生しました。朝から虱退治が日課でした。運動もさせず、日光浴もさせず、ロクな栄養の取れない中ですが、梅雨時期ですから元気な人でも脚気にもなります。

せたり、転向(変節)を迫ったりしたようですね。

市ヶ谷監獄の病監へ「おお！まだ生きていたか」

田熊 警察では医者にも二回ぐらい診てもらいました。もともと留置人ですから警察が費用を出さないといけない医療費を、一五〇円の金があるからと個人に負担させました。十円ぐらいでした。笹原署に移って十日過ぎに市ヶ谷の未決監獄に送られ、予審判事にまわされました。この時はもう一步も歩くことができず、雑役夫に背負われて監房にはいりました。その晩、はじめて「物相(もつそう)飯」をたべました。麦七分米三分で真つ黒のご飯でした。脚気のため手足がしびれて箸が使えませんので、手掴みで口に押し込みました。手掴みでたべるのは二週間ぐらい続きました。警察では蚤、虱に苦しみました、

市ヶ谷では蚤、虱だけはいなかったのは助かりました。

市ヶ谷の未決に移されたときは脚気も重態でした。一晚泊まって点検がありました。脚気になると頭もボケてしまい、たいへんな疲労で、取り調べの最中に眠ってしまいました。翌朝、看守がのぞき窓から「おお、まだ生きていたか」と言っていました。それほど重い脚気でした。「生きちゃ帰れない」と思いましたね。診察を求めて、警察医が診てくれ、病監につれていかれました。この時も歩けないまま雑役夫に背負われて連れて行かれました。病監では軍隊でいう衛生兵みたいな雑役夫がビタミン注射を毎日してくれました。この注射の針がもう古いんです。ちびいて目の前でサンドペーパーで磨いては針を刺すのでものすごく痛かったことを思い出します。監獄では人間並みには

扱われないとつくづく感じました。この雑役夫が「この病監にはもう一人共産党がいる」と教えてくれました。三・一五の被告の佐野文夫でした。独房の窓の隙間からのぞいた感じではスマートな人でした。病気のため保釈で出る時、「おれは病気で出るが、がんばれよ」と窓の外から私を励まして出ていきました。とても激励になりました。保釈後、間もなくには彼は死にました。結核だったようです。「俺は死にそうになっているのに釈放されず、佐野文夫はどうして出られたのかな」と思いましたが、激励はありがたかったです。病監には四ヶ月以上いました。つくづく



治安維持法と現代
の表紙
定価 1000円